

- 下北地域では、夏季冷涼な気候に適した夏秋いちごに取り組む新規就農者が増加。しかし、非農家出身者が多いため、技術習得や農地・販路の確保等が難航し、営農開始後は経営が不安定。
- このため、新規就農者の資質向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、スマート農業の試験展示ほ設置をとおして、その有利性を普及。
- その結果、適切な栽培管理を行う新規就農者が増加し、1億円産地として育成される等、産地力が向上。

具体的な成果

1 夏秋いちご販売額の増加

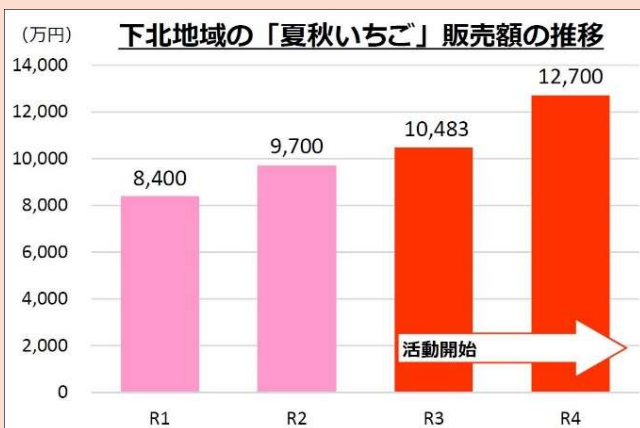
- 適切な栽培管理を行う新規就農者の増加に伴い販売額が向上。

①販売額

0.97億円（取組前R2）→1.27億円（R4）



「しもきた夏秋いちごレベルアップ研修会」



2 スマート農業の普及

- スマート農業試験展示ほを活用した普及指導活動により、自動施肥・かん水システムを取り入れた新規就農者が増加

①取組者数

2名（取組前R2）→12名（R4）

普及指導員の活動

令和3～4年度

- 新規就農者の栽培技術向上

① 現地研修、先進地視察研修、座学研修を組み合わせた「しもきた夏秋いちごレベルアップ研修会」を開催するとともに個別巡回指導をとおして、新規就農者の栽培技術が向上。

② 農薬・資材メーカー等の技術者や国・県の試験研究機関の研究員を講師に最新情報を提供したり、座学研修の一部ではオンライン参加も可能にするなど、受講者の利便性にも配慮。

- スマート農業を活用した多収・安定生産技術の確立

① 日射比例式自動施肥・かん水システムを活用した「スマート農業試験展示ほ」を設置し、下北地域に適した施肥省力化技術の確立に向けデータを収集。

② 試験展示ほを活用した現地研修会や成績検討会を開催し、試験成果や原水水質の改善方法等について指導。

普及指導員だからできたこと

・ 産地の課題を整理し、日頃から連携している先進農家、JA、試験研究機関、民間企業等の協力を得ることで、課題解決に向けた取組を進めることができた。

・ 新規就農者に寄り添い、各自の悩みや課題に合わせた改善を提案することで、個々の栽培技術が向上した。

新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化

活動期間：令和 3 ～ 5 年度

1. 取組の背景

下北地域の夏季冷涼な気候に適する夏秋いちごは、国の新規就農支援施策の充実や地域における研修体制の整備等により、これに取り組む新規就農者が増加し、作付面積も拡大してきた。

しかし、当地域の新規就農者は、他産業から就農した非農家出身者が3分の2以上を占めており、これまで栽培技術や経営管理能力の底上げを図ってきたものの青年等就農計画の所得目標を下回ることが多く、継続的な指導が必要となっている。

また、自動換気や自動施肥・かん水システムについては、慣行栽培並みの収量・品質が省力的に確保できることが実証されているが、生育・環境データを栽培管理に反映させ、増収につなげる手法はまだ確立されておらず、新規就農者が機器を十分に活用するに至っていない。

そこで、夏秋いちごの産地力強化を目的に、新規就農者の栽培技術力の向上を支援するとともに、スマート農業を活用した多収・安定生産技術を確立し、産地の維持・拡大に向け、新規就農者の経営安定化を図ることとした。

2. 活動内容（詳細）

（1）新規就農者の栽培技術向上

現地研修（3回／年）、先進地視察研修（1回／年）、座学研修（5回／年）を体系的に組み合わせた「しもきた夏秋いちごレベルアップ研修会」を開催するとともに、個別巡回指導の実施をとおして、新規就農者の栽培技術の向上を図った。

普及指導員のほか、農薬・資材メーカー等の技術者や国・県の試験研究機関の研究員にも講師を依頼して最新情報を提供したり、座学研修の一部ではオンライン参加も可能にするなど、受講者の利便性にも配慮した。

（2）スマート農業を活用した多収・安定生産技術の確立

日射比例式自動施肥・かん水システムを活用した「スマート農業試験展示ほ」を設置し、生育調査に加え、土壌及び葉柄の硝酸態窒素濃度の調査など、下北地域に適した施肥省力化技術の確立に向け各種データを収集した。

また、試験展示ほを活用した現地研修会（1回／年）や成績検討会（1回／年）を開催し、調査結果や原水水質の改善方法等について情報提供した。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）夏秋いちご販売額の増加

研修会開催や個別巡回指導により、適切な栽培管理を行う生産者が増加したことから、令和3年度の販売額は1.05億円と初の1億円台となり、令和4年度は1.27億円と、取組前の令和2年度（0.97億円）より31ポイン

ト上回った。

(2) スマート農業の普及

スマート農業試験展示ほを活用した普及指導活動により、その有効性が認識され、自動施肥・かん水システムを取り入れた新規就農者が、取組前の令和2年度の2名から、令和4年度には12名に増加した。



夏秋いちごレベルアップ研修会（6月） 個別巡回でコガネムシ被害の相談に対応（7月）

4. 農家等からの評価・コメント（むつ市A氏、東通村B氏）

下北地域においては夏秋いちごの有利栽培が可能であり、新規就農者には夏秋いちごを柱に安定した農業経営の確立を期待したい。

そのためにも、新規就農者には、研修会等への参画をとおして経営に必要な技術や知見、特に今後はスマート農業関係の最新技術の習得が求められることから、農業普及振興室には引き続き体系的かつ効果的な研修の場づくりをお願いしたい。

また、下北地域の夏秋いちごは大消費地から離れているので、生産者が協力して一定量を継続販売し、産地としての地位を上げていく必要がある。農業普及振興室には、生産のみならず販売についても指導をお願いしたい。

5. 普及指導員のコメント（下北地域農林水産部・主幹・長谷川夏子）

普及指導活動を展開するに当たり、新規就農者等を対象に「夏秋いちご栽培に関するアンケート」を最初に実施したことで、生産者個々と産地の課題を的確に把握でき、優先順位を付けて取り組むことができた。

栽培期間中は生産者も繁忙を極め、この時期の研修会は参集に苦戦したが、興味を引くテーマを設定できた会は理解度、満足度が高かったようであった。

また、座学研修では、就農0～3年目の新規就農者のみを対象とした講座も設け、質問や相談をしやすい雰囲気づくりに努めた結果、新規就農者相互のつながりも作らせることができた。

他の生産者のことを考えて協調した行動ができる者、技術力で優れる者、販売や情報発信が得意な者等が頭角を現しつつあり、多様な新規就農者の連携による産地の発展が今後期待される。

6. 現状・今後の展開等

新規就農者の栽培技術向上については、収量性の改善が十分に認められない新規就農者がいるため、その要因の一つである生育中期以降の萎凋枯死の抑制に向け、対策指導を展開していく必要がある。

また、連作により土壌病害虫の被害が顕在化していることから、土壌消毒を始めとする複数の対策も指導していく。

スマート農業を活用した多収・安定生産技術の確立については、これまでの実証試験の結果に加え、高pH原水ほ場における水質改善及び施肥方法等も検証し、これらの成果をマニュアルに取りまとめ、普及指導活動の資料として活用する。